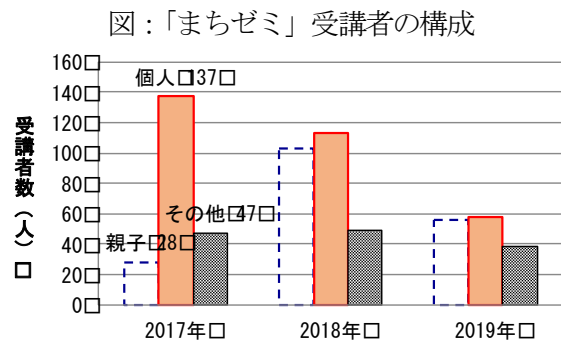


(1) プロジェクト名	「まちゼミ」の魅力度アップによる商店間連携促進プロジェクト
(2) プロジェクトの成果 (※そのような成果が得られたかについて具体的に記載)	

① 商店街の新規ターゲット層へのPR効果

右図のように2017年度まではまちゼミ受講者の主要層は個人だったが、子ども合宿を開始した2018・19年度は親子層が急増している。また同様のアンケート調査で10代未満、10・30・40代の割合が増えたことから、子ども合宿の実施により若年層の参加者が増加したことが明らかである。また「まちゼミに初めて訪れた」受講者が増えたことが確認され、新規の受講者層の獲得と中心市街地商店街への認知効果が認められた。



出所:事後アンケート調査より。

② 子どもへの教育効果

子ども合宿の対象者は小学校高学年の児童だが、この年代は小学校から中学校へと進学する準備段階にある。学区が変わり人間関係が広がるとともに、親元を離れる機会も増えるためより一層の自立心を養う段階にある中で、「学区を超えた他の児童や大人との交流」や「まずは自分が環境の改善に努める」ことを学ぶことが必要だという願いで本プロジェクトを開始している。

結果、以下のボックスのような回答が保護者と児童から得られた。

[子ども合宿終了後の保護者・児童による感想] ※一部抜粋

- ・ 周囲の人の気を配って行動する所が見られた。… (中略) …マイペースな性格なので、あまりそうゆうことはしなかったのが、多勢の方と過ごした中で少し周りが見えるようになったのかなと。(保護者より)
- ・ いつのまにか、仲良くなれるところがこども合宿のいいところだと思います。(児童より)

ここから、小学校→中学校へ上がる児童に対する人格的な教育効果が得られた。

③ 子ども合宿運営における効率化・財務健全化

上記①②の通り子ども合宿に効果があることが認められたが、持続可能性の面で課題があった。

本プロジェクトは2018・19年度の2カ年で運用してきた。2018年度は初実施(試行実施)であったこともあり、安価な価格設定で臨んだが、結果的に定員の4倍近い募集と赤字を計上することとなった。2018年度は需給バランスと財務バランスが悪い状況であった。そこで2019年度は値上げを行ったが、募集は定員をやや超える程度で、参加者へのアンケートで満足度の変化は見受けられなく、かつ財務バランスが大幅に修正された。

また2018年度は商店街の多くの店舗に協力をいただいたが、これが店舗主の過負担と(過密スケジュールという意味で)参加児童のストレスともなっていた。そこで2019年度は子どもに授業を行う店舗数を絞り、レクリエーションの時間を増やした。これにより、店舗も児童も過負担なく子ども合宿を実施できた。

以上より、今後も同プロジェクトを実施する持続可能性が担保されたことが成果である。

(3) プロジェクト実施内容 (※事業の実施方法、時期、場所、回数、市民への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載)

#### ① 事業の実施方法

本事業は「まちゼミ」とタイアップする事業のため、この運営体制に組み込まれている。具体的には、中心市街地商店街の各店舗と金城学院大学畠山ゼミが合宿内での授業やレクリエーションの内容を企画し、瀬戸まちづくり株式会社がその全体調整をする。相談役として瀬戸市役所と瀬戸商工会議所が加わって実施された。

この体制のもと、「まちゼミ」期間中の7月下旬に、瀬戸市内の小学校高学年児童を対象に1泊2日の子ども合宿を行った。

#### ② 事業の時期・場所・回数

瀬戸まちづくり株式会社、瀬戸市役所、および本事業への協力店舗主を交えた事業実施のための会議を4/18、5/16、5/28、6/11 (以上瀬戸蔵にて)、7/23 (金城学院大学にて) に行った。また、6/13と7/2には合宿中の授業内容の検討のために各店舗との打合せを中心市街地商店街にて行った。

子ども合宿は7/25・26に「ゲストハウスもやいや」にて実施した。

その後、10/29、11/21 (以上瀬戸蔵にて、PJリーダーのみ参加)、11/12、12/5、12/17 (以上金城学院大学にて) に事業の振り返りと次年度方針の検討のための会議を行った。また、8/18、9/5、9/14、9/15、10/8、12/2に各店舗での意見集約を兼ねた取材活動を中心市街地商店街にて行った。加えて2020年2月に記録用の動画を編集した。

#### ③ 市民への周知方法

従来の「まちゼミ」は新聞の折り込みチラシによりイベント告知をしていたが、「まちゼミ」受講者の若返り化・新規開拓を狙った本事業では、(子どもへの合宿という意図もあり) 瀬戸市内の小学校や児童関連施設へのチラシ配布に切り替えた。また市内の公共施設各所にも配布した。その他、瀬戸まちづくり株式会社や各商店街、金城学院大学生のSNSで周知した。子ども合宿実施の様子は、2018年度には8/4に中日新聞 (なごや東版)、2019年度には7/26にグリーンシティケーブルテレビ「そらまめ通信」にて取り上げられている。

#### ④ 参加人数

子ども合宿の募集定員は10名 (小学校高学年限定) とした。2018年度の参加児童数は10名 (応募者数39名)、19年度は9名 (応募者数11名) で、全て瀬戸市民であった。うち児童1名のリピーターがあった。

#### (4) プロジェクトの今後の課題と展望

先述の図において2018年度から2019年度にかけて「まちゼミ」受講者数が大幅に減少している。これは「まちゼミ」の参加店舗の減少と、それによる講座数の減少が要因となっている。「まちゼミ」及び子ども合宿は講座内容の検討や実施のために各店舗が相応のエネルギーを注がなければならない一方、その対価としての集客効果には疑問が残る部分があり、参加店舗の減少はここに一因があると考えられる。そこで引き続き若年層・新規層の開拓というアプローチは残しながら、単なる「まちゼミ」のPRや講座の実施をするのみならず、今後は「店舗自体の魅力」を積極的にPRする手段 (例えば単なる「まちゼミ」のチラシではなく新たな告知媒体のデザイン等) を検討する。



[写真 1]



[写真 2]



[写真 3]



[写真 4]



[写真 5]



[写真 6]

[写真 1] 学生が制作した教科書。帰宅後も子どもが授業で習ったことを実践できるように利用してもらおう。  
 [写真 2,3,4] 商店街店舗の方と子どもとの実際の授業の様子。格闘技ジムでのエクササイズ、ストラップづくり、良い陶器の見分け方の勉強等。  
 [写真 5] 子どもは合宿中、学生に指導を受けながら食材を購入し自炊をする。  
 [写真 6] 子どもは最終日には修了証を受け取り、思い出の絵日記を書いた。絵日記は商店街に展示された。